

岩崎純一歌集		『新純星余情和歌集』>1997年の部				
歌集名読み		しんじゆんせいよせいわかしふ				
作者		岩崎純一				
通釈・語釈		園井長光、岩崎純一(自釈)				
作者サイト		<a href="http://iwasakijunichi.net/">http://iwasakijunichi.net/</a>				
和歌ページトップ		<a href="http://iwasakijunichi.net/waka/">http://iwasakijunichi.net/waka/</a>				
詠進年月日	題	1997年の歌会・歌合	通釈	語釈	他歌人欄	
主催: 母校の中学校	歌数:1首 歌人数:1名 自歌数:1首	『百人一首かるた大会主題和歌』(ひやくにんいつしゆたいくわいしゆだいわか)			評	派生歌など
1997	母校の中学校の百人一首かるた大会開催(1997/12/20)に際し、当時三年生の私が大会運営委員の一人に選出された。大会開催にあたり大会のテーマを設けることとなり、委員会での多数決の結果、私の和歌より採った「いとあはれなり」がテーマとなった。以下は、その元の歌である。					
1997/12/15	歌留多	大雪も歌留多せはしく取る手より静かに降れるいとあはれなり	大雪でさえ、百人一首の札を急いで取る競技者の忙しい手の動作よりもずっと静かに降るように見えることだ。そんな雪の光景は、とても興味が深いものである。		◆「細雪や粉雪よりは興味がないと思われがちな大雪でさえ、カルタ取りの激しい光景の前では興味ある静けさに見える」との皮肉を当時込めたことを、2012年の今も思い出すが、採用された当時、その風刺的な意味合いは、周囲からあまり気に留められなかったようである。(自注)	